

# 生 活

教科別研究主題 一人一人の思いや願いを大切にしながら豊かな活動を促す支援の在り方

## 研究概要及び索引語

本研究では、県内の小学校における生活科の学習指導に関して、「子供が主体的に活動するために大切なこと」、「子供の思いや願いのとらえ方」、「支援のしかた」などの実態について調査をした。

さらに、この調査結果を踏まえ、子供の思いや願いを生かしていくための学習指導について活動計画の作成の仕方と豊かな活動が展開できるための支援を視点として、小学校第1学年及び第2学年を対象として授業研究を行った。

索引語 : 生活科, 主体的活動, 意識・実態調査, 授業改善, 支援

## 目 次

はじめに .....	45
1 研究のねらい .....	45
2 研究主題に関する基本的な考え方 .....	45
3 生活科学習指導に関する意識・実態調査 .....	46
4 授業研究 .....	50
【授業研究1】 小学校第1学年「つくってあそぼう」 .....	50
【授業研究2】 小学校第2学年「作ってあそぼう」 .....	54
おわりに .....	60



## はじめに

生活科は、具体的な活動や体験を通して、子供の探求心をはぐくみ豊かな体験の世界を広げ、深めていくなかで、よき生活者として求められる能力や態度を育成することを目指している。そのためには、子供一人一人の思いや願いを受け止め、よさや可能性を引き出し、伸ばすように支援することが求められる。

本研究では、共通研究主題である「主体的に活動できる観察・実験、実技の指導の在り方」についての基本的な考え方に示されている「児童一人一人の思いや願いを大切にし、体験的な活動に児童が自ら進んで参加し、自らの力で思考し、判断し、やり通すことを通して、資質や能力を形成する学習指導を展開していくこと」を踏まえ、生活科の学習指導上の諸問題などの実態を調べ、その実態に基づいて、子供一人一人の思いや願いを受け止め、思いや願いに基づいた豊かな活動を展開するための支援の在り方について取り組んだ。

## 1 研究のねらい

本研究は、子供の側に立つ学習指導を目指し、生活科における学習指導の実態を踏まえ、子供一人一人の思いや願いを大切にしながら豊かな活動を促すための支援の在り方について研究する。

## 2 研究主題に関する基本的な考え方

### (1) 「思いや願いを大切にする」について

子供の思いや願いは、能動的な活動を展開していくための原動力と考えられる。そのため、子供一人一人の思いや願いを受け止めることから始まり、思いや願いを学習活動に生かすことが大切である。具体的に思いや願いを生かすための視点として、次のア～エを挙げる。

ア 興味・関心をもってかかわることができる素材の選択を通して、思いや願いを引き出すようにする。

イ 思いや願いを共感的にとらえ、自信と意欲をもたせるようなかかわり方をすることによって、子供の思いや願いがふくらむようにする。

ウ 思いや願いに応じた活動や体験を通して、知的な活発さを引き起こすことができるようにする。

エ 思いや願いが、感動、驚き及び楽しさといった情緒的かかわりをもって、実現できるようにする。

### (2) 「豊かな活動」について

生活科は、具体的な活動や体験を通して、子供が自ら学び、自ら生きる知恵を身に付けることを目指している。そのためには、自発的に取り組むなかで、気付き、考え、判断することのできるような多様さや広まりといった量的な面と活動の確かさや深まりといった質的な面をもつ豊かな活動が求められる。具体的に子供一人一人の豊かな活動を展開するための視点として、次のア～ウを挙げる。

ア 多様な活動や体験が存分にできるように場の設定と環境の構成をする。

イ 思いや願いに応じて、繰り返し活動できるようにする。

ウ 活動や体験を通して得たことを一つにまとめようとすることにこだわらず、多様な考えが表現できるようにする。

(3) 「豊かな活動を促す一人一人への支援」について

授業における支援とは、一人一人の子供にとっての支え助けになることをすることである。見守ること、教えること、手を貸すこと、励ますこと、賞賛すること、諭すことなどはいずれも支援である。支援は一律に一斉に行うことではなく、一人一人の子供に即して行う必要がある。また、豊かな活動が展開できるように支援するには、一人一人の子供のよさや可能性に着目し、愛情をもって共感的に子供の思いや願いを理解することが大切である。具体的に子供一人一人の豊かな活動を促す支援の視点として、次にア～ウを挙げる。

- ア 子供のよさや可能性に着目し、愛情をもって共感的に子供を理解して支援にあたる。
- イ 個に応じ、個を生かすことに配慮して、子供一人一人に即した支援を行う。
- ウ 子供が安心感、安定感をもって活動できるような環境の構成をする。

3 生活科学習指導に関する意識・実態調査

研究主題の基本的な考えに基づき、生活科の学習指導上の諸問題などの実態を調べるため、意識・実態調査を実施した。

- (1) 調査対象 県内の小学校 100校の生活科主任に回答を依頼した。回答者数は98人である。
- (2) 実施時期 平成6年10月24日から10月29日まで
- (3) 調査結果及び分析 (表中の数値は、回答者数に対する各問の回答数の割合(%)である。)

表1 子供が主体的な活動をするために

生活科の学習で、子供が主体的に活動するために大切だと思うことは何ですか。 (二つまで回答可)	
ア 体験的な活動を積極的に取り入れる	85.7
イ 地域環境を積極的に活用する	17.3
ウ 個に応じ、個を生かす授業づくりを工夫する	20.4
エ 子供一人一人の思いや願いを受け止め指導に生かす	58.2
オ 子供の学習を励まし、能力や適性などを引き出し育てる	18.4
カ 特に思いあたらない	0
キ その他	0

子供が主体的に活動するためには、一人一人の思いや願いをしっかり受け止め、体験的な活動を積極的に取り入れることが大切であると考えている教師が多い。体験的な活動は、子供が主体的にかかわれる活動であり、一人一人の思いや願いを生かして取り組めることができる活動である。こうした活動を重視することによって、主体的に生きていくことができる力を育てることにつながるものと思われる。

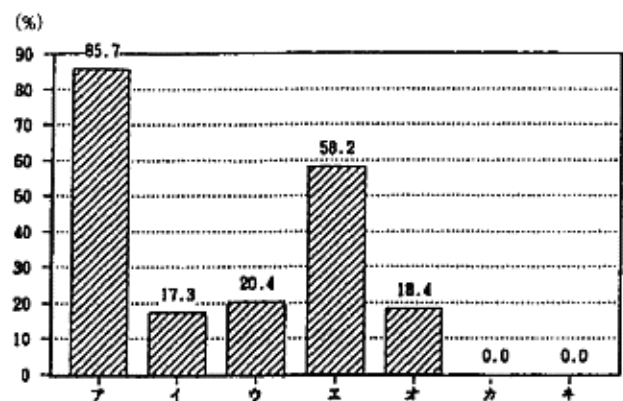


図1 子供が主体的な活動をするために

表2 主体的な活動を促す単元づくりの工夫

主体的な活動を促すため、どのようなことに留意して単元づくりをしていますか。 (三つまで回答可)	
ア 子供の関心に応じた素材の選択をする	48.0
イ 地域の環境を生かした学習素材を開発する	38.8
ウ 子供一人一人が思いや願いをもてるような活動のきっかけを工夫する	72.4
エ 子供の意識に沿い、子供が選択できるような単元の流れを構成する	41.8
オ 一人一人の気付きを大切にしながら認めるようにする	51.0
カ 子供の得意な表現方法を取り入れた表現活動を位置づける	22.4
キ 子供が創り出す環境を大切にする	18.4
ク 子供が自分を振り返る活動ができるよう工夫する	7.1
ケ 特に留意していることはない	0.0
コ その他	0.0

主体的な活動を促すための単元づくりでは、子供一人一人が思いや願いをもてるような活動のきっかけを工夫したり、気付きを大切にしたり、関心に応じた素材の選択をしたりすることに留意する必要があると考えている。単元づくりにおいては、活動のきっかけが子供から生まれるようにし、学習活動が子供の日常生活に連続していくことによって、主体的に活動が展開されるものと思われる。

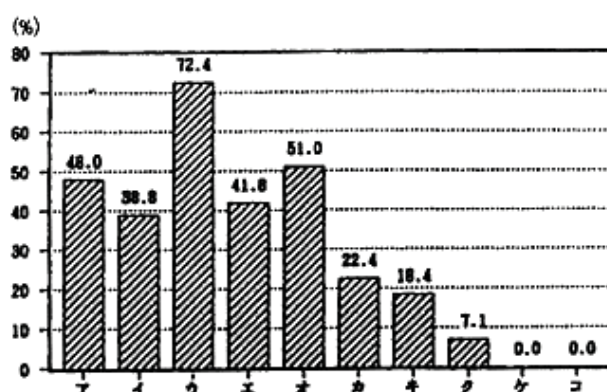


図2 主体的な活動を促す単元づくりの工夫

表3 子供の思いや願いの把握の仕方

どのような方法で子供の思いや願いをとらえようとしていますか。 (二つまで回答可)	
ア 子供の性格や特徴からつかむ	0.0
イ 子供の様子から見取る	39.8
ウ 子供と一緒に活動してつかむ	48.0
エ 子供の作品から見取る	4.1
オ 子供の会話やつぶやきなどからつかむ	87.8
カ カードやアンケートを使ってつかむ	20.4
キ 特にとらえようとしていない	0.0
ク その他	0.0

生活科の学習のなかで、ほとんどの教師が子供の思いや願いを感じている。思いや願いのとらえ方として、子供の会話やつぶやき、子供と共にする活動、子供の様子などを挙げている。このようなとらえ方を可能にするためには、学習の中だけでなく、日常生活のなかで子供を観察し、子供を理解するように努めることが大切と思われる。

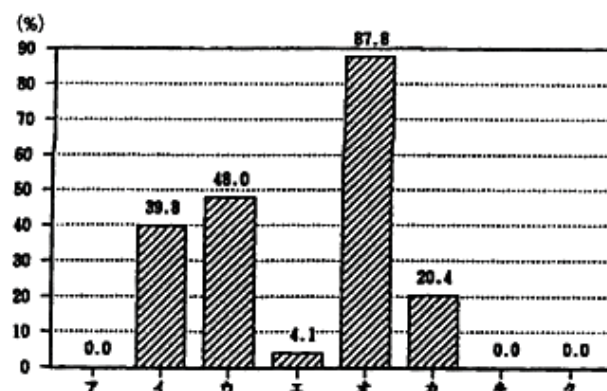


図3 子供の思いや願いの把握の仕方

表4 子供の思いや願いが生かせないとき

子供の思いや願いを、生活科の学習の中で生かせないのは、どんなときですか。 (二つまで回答可)	
ア 地域や学校の環境によって、子供の思いや願いに対応できないとき	50.0
イ 安全面から考えて、子供の思いや願いに対応できないとき	45.9
ウ 時間的なゆとりがないとき	51.0
エ 子供の思いや願いが、学習のねらいからかけ離れているとき	24.5
オ 子供の思いや願いを取り入れると、対応が多様になりすぎるとき	23.5
カ 特に学習の中で生かせないと思っていることはない	0
キ その他	0

会話やつぶやきなどから捉えた子供の思いや願いに、授業で臨機応変に対応したり、活動計画を修正し柔軟に対応する教師が多い。

また、子供の思いや願いが学習の中に生かせない理由として、時間的なゆとりがない、安全面から対応できない、地域や学校の環境により対応できないなどを挙げている。

子供が主体的に活動するためには、有効な学習環境を構成し、活動計画を柔軟に捉え改善することが、重要な課題であると思われる。

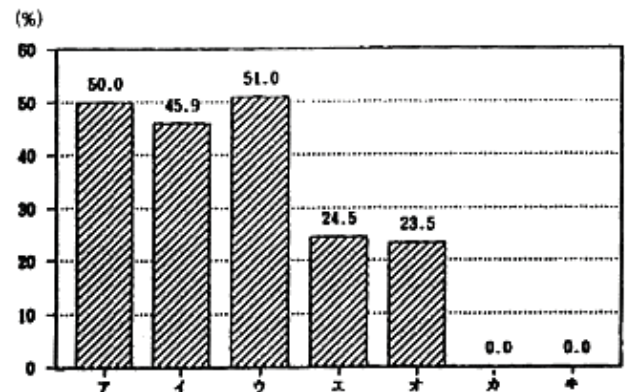


図4 子供の思いや願いが生かせないとき

表5 教師の支援について

子供が自ら進んで活動するためには、どのような教師の働きかけが効果的ですか。 (三つまで回答可)	
ア 子供を温かく見守り、励ましの言葉をかける	74.5
イ 子供の思いを見極め、計画を柔軟に変更する	33.7
ウ 子供が試行錯誤するのを見守る	26.5
エ 活動が停滞しているときには、機を見計らい手助けをする	32.7
オ 環境の構成を工夫し、活動が展開していくようにする	45.9
カ 子供と共に活動し、感動を共有する	28.6
キ 子供と共に活動し、実際の活動の中で、気づきを全体に広げる	51.0
ク 特に働きかけはしていない	0
ケ その他	0

子供が自ら進んで活動するためには、子供を温かく見守り、励ましの言葉をかけたり、共に活動して気づきを全体に広げたりする支援が効果的と考えている教師が多い。子供のよさを認め伸ばし、一人一人の自立への基礎を培っていくためには、子供が自らすることを支援する教育を推進していくことが重要であると思われる。

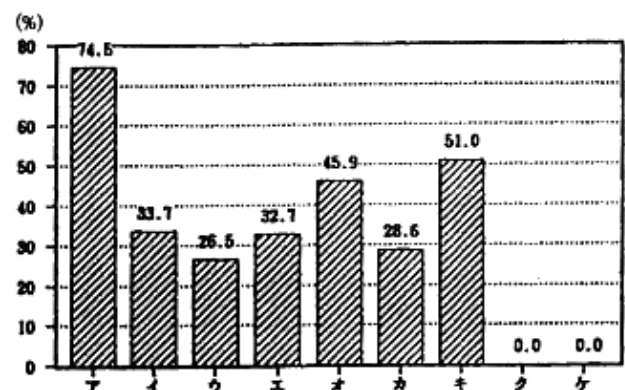


図5 教師の支援について

表6 教師が感じる働きかけの難しさ

生活科の学習で、教師の働きかけで、難しいと感じていることはどんなことですか。 (三つまで回答可)		
ア	子供の願いと単元のねらいに大きな隔たりがあるときの働きかけ	35.7
イ	意欲・気付き・活動の様子などを見取り、臨機応変に対応すること	56.1
ウ	子供を生かしていく環境づくり	25.5
エ	一人一人を的確につかんで(評価)、働きかけること	81.6
オ	地域や家庭に働きかけていくこと	23.5
カ	教師の働きかけが、教師からの一方的な指導になりがちなこと	55.1
キ	特に難しいと感じていることはない	0.0
ク	その他	0.0

支援に当たって難しいことは、一人一人を的確につかんで働きかけること、子供の様子を見取り臨機応変に対応することを挙げている教師が多く、教師からの一方的な指導になりがちであると考えている。支援をするときは、子供一人一人に即して行い、愛情をもって共感的に子供に接することによって、子供は安心感や安定感をもち、主体的に活動できるものとする。

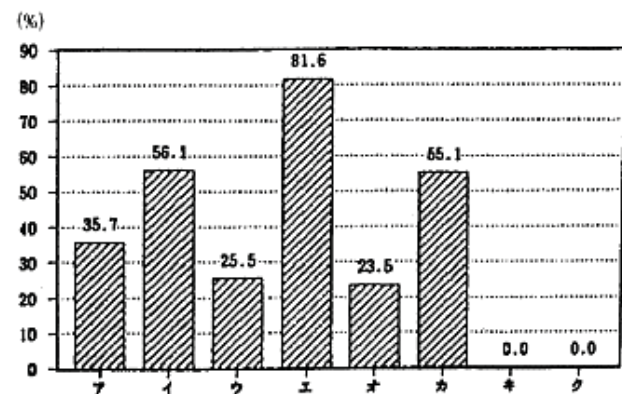


図6 教師が感じる働きかけの難しさ

表7 生活科で育つ子供像

生活科の学習を実践することで、どのような子供が育っていると思いますか。 (五つまで回答可)			
ア	集中力のある子供	11.2	2
イ	判断力のある子供	30.8	6
ウ	やりぬく子供	18.4	4
エ	表現力のある子供	75.5	5
オ	企画力のある子供	42.9	9
カ	よく気が付く子供	22.4	4
キ	協力する子供	67.3	3
ク	生き物に親しみをもつ子供	73.5	5
ケ	工夫する子供	67.3	3
コ	礼儀正しい子供	1.0	0
サ	自己主張の強い子供	11.2	2
シ	落ち着きのない子供	2.0	0
ス	身勝手な行動をとる子供	1.0	0
セ	教師の指示に従わない子供	0.0	0
ソ	分からない。	0.0	0
タ	その他(よいところを認める子供、発想の豊かな子供)	3.1	1

生活科で育つ子供像として、表現力のある子供、生き物に親しみをもつ子供、協力する子供、工夫する子供などを挙げている教師が多い。しかし、自己主張の強い子供などを挙げている教師も少数いる。これに対しては、自分とのかかわりにおいて、身近な社会や自然を学ぶとともに、自分自身への気付きを深め、よき生活者としての能力や態度を育てることをねらいとしていることを考えたい。

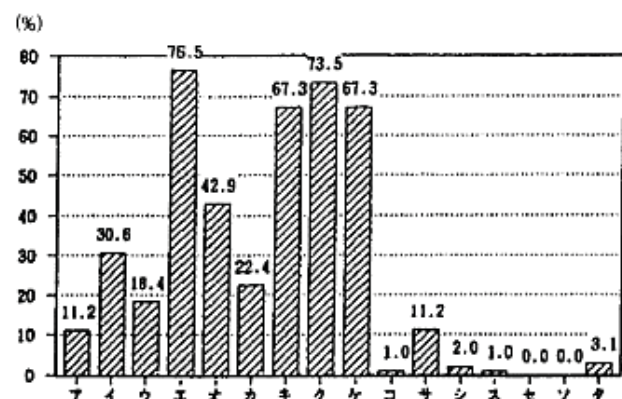


図7 生活科で育つ子供像

## 4 授 業 研 究

授業研究は、研究の基本的な考えと意識・実態調査の結果を踏まえ、子供の思いや願いを生かす活動計画の作成と豊かな活動が展開できるための支援と評価の在り方を視点として行った。

### 【授業研究1】 小学校第1学年「つくってあそぼう」

#### (1) 授業研究のねらい

本單元における豊かな活動とは、子供たちが身の回りにあるいろいろな素材と触れあい、その触れ合いの中で生まれる「何か作ってみたい」という思いや願いに基づき、作りながら改良したり、友達と作ったもので遊びを考え出したりする活動を広げていくことと考える。こうした活動を促すために、子供一人一人の活動に寄せる思いや願いの生かし方について研究をする。

#### (2) 豊かな活動を促すための手だて

##### ア 活動計画

学習のねらいを踏まえながら、子供たちの活動に対する思いや願いを大切に、子供とともに活動計画を作り上げていく。

##### イ 支 援

子供一人一人の活動を見取り、どのような支援がその子にとって大切であるかを考え支援案を立てて授業に取り組むとともに、さらに子供の思いや願いが膨らみ、豊かな活動へと活動意欲を高める支援の在り方について研究する。

##### ウ 評 価

単元の目標に沿った豊かな活動を明確にし、求める子供の姿として、評価項目を子供の具体的な活動の姿で表現する。教師の期待する活動と実際に見られた子供の活動について比較検討し研究を深める。

#### (3) 授業の実践

##### ア 単元 つくってあそぼう

##### イ 単元について

学級の子供に図工などの準備を呼びかけると、親に全部用意してもらう場合が多く、授業では「何を作るんですか」という質問がよく出る。材料を見て戸惑っている子供もいる。また、子供の生活は、ファミコンで代表されるように、互いにかかわりが少ない遊びで毎日を過ごしている。こうした状況にある子供が、何かを自分で作ってみたいと思い、試行錯誤しながら作りあげていく過程は意味深いと考える。さらに、自分たちのおもちゃで遊ぶことの楽しさを味わいながら、自ら回りのものや人にかかわっていこうとする態度を育てたいと考える。

##### ウ 単元の目標

- 〈関心・意欲・態度〉 ○ 身の回りにある材料などを使って、自分なりに作りたいものを作ったり、作ったりしようとする。
- 〈思考・表現〉 ○ おもちゃの材料を探したり、見つけたりしながら自分なりのおもちゃを作ることができる。
- 〈気付き〉 ○ 身の回りにある材料をうまく生かして、作って遊んだりする楽しさに気付くことができる。
- 友達との遊びを通して、自分や友達によさに気付くことができる。



エ 活動計画（6時間扱い）

次	子供の活動	教師の支援	評価
1	<p><b>おもちゃをつくろう</b> ※1 3時間</p> <p>(1) いろいろな材料がある。 ・何か作ってみたいな。 ※2</p> <p>(2) つくってみよう (本時) ・何かできそうだな。 ・ロボットができるぞ ・けん玉ができるぞ。 ・材料をさがそう</p> <p>(3) おもちゃをつくろう。 ※3 ・名前をつけよう。</p> <p>・〇〇ちゃんのおもちゃはおもしろいよ。</p>	<p>・バック・カップ・廃材など、豊富な材料を用意しておく。</p> <p>・子供一人一人が作りたいたいのが思い浮ぶように素材に触れる時間を十分に確保する。</p> <p>・子供からもっとこんなものが必要だという相談のっていく。</p> <p>・自分だけのおもちゃを作ってみようとする意欲を盛り上げる。</p> <p>・思うようにつけれない児童には、その思いをくみ援助していく。</p>	<p>・様々な材料を眺めたり触ったりして、自分のおもちゃを作ってみようとする。(関・意)</p> <p>・自分で考えたおもちゃをみんなに伝えることができる。(表現)</p> <p>・自分で作りたいたおもちゃの材料集めや探しができる。(関・意・態)</p> <p>・材料や道具を使って、自分の作りたいたおもちゃを作ろうとしている。(思・表)</p> <p>・使える材料や道具に気付く。(気付き)</p>
2	<p><b>おもちゃのじまんかいをしよう</b></p> <p>1時間</p> <p>・〇〇ちゃんと遊んでみたい</p>	<p>・一人一人のおもちゃのよさを認めるようにする。</p>	<p>・自分のおもちゃを紹介できる。(表現)</p> <p>・友達のおもちゃのよさに気付く。(気付き)</p>
3	<p><b>おもちゃであそぼう</b></p> <p>2時間</p> <p>・みんなで遊びたい。 ・おもちゃやさんにしたい。 ・遊園地にしたい。 ※4</p>	<p>・遊び方を教え合ったりしながら、楽しく遊べるように場を盛り上げる。</p> <p>・子供の思いの広がり大切に</p>	<p>・友達と遊び方を決めたりして仲良く遊ぼうとしている。(態)</p> <p>・友達と遊ぶ楽しさに気付く。(気付き)</p>

※他教科との関連 ※1 夏休みおもちゃ展(学級活動) ※2 いろいろなかたち(算数)

※3 つつのかたちから・うごくおもちゃ(図工) ※4 つくってあそんだこと(国語)

オ 本時の活動

(ア) 目標 いろいろな材料に触れたり、遊んだりしながら、自分で作りたいたおもちゃを作ろうとすることができる。

(イ) 支援 本時の活動では、子供は、材料と向き合いながら「作りたいたもの」と「作れそうなもの」を自問自答しながら「作れるもの」のおもちゃの制作していくであろう。作るという活動に没頭している子供、本を調べたり積極的に材料を探したりする子供、自分の作ったもので一人遊びに満足する子供、自分の作ったもので友達同士の遊びに発展する子供などそれぞれの育ちやよさを認めながら一人一人の活動を支援していきたい。

(場の支援)

- 作りたいたものが思い浮かぶような材料を豊富に用意し、置き方も子供と相談して決める。
- 実際に材料を手にとって遊びながら作りたいたものが決められるように十分に時間や場所を確保するようにする。

(思いへの支援)

- すぐに作ってみたいと思う子供の意欲を大切に、足りないもの必要なものなどについて相談にのるようにしたり、励ましたりする。
- その子なりのおもちゃに対するイメージを大切に、動くものにこだわらない。

○ 作ろうとしないで遊んでいる子供でもその子供なりのこだわりを認め見守っていききたい。

(活動に対する支援) 展開部分教師の支援参照


(ウ) 評価

場面	評価の観点	求める子供の姿
活動中	関・意・態	・材料を思い思いに手に取ったり、遊んだりしている。 ・自分で必要な材料を探したり、取りにいかようとしている。
	思考・表現 気付き	・自分の経験を生かしながら(遊んだことのある・見たことのある)作りたいものを形にしようとしている。
	気付き	・友達の作品のよさを探そうとする。

(エ) 展開

子供の活動	教師の支援
<p>○ いっぱいあるけどなにかつくれるかな。 ・様々な材料で遊ぶ。 重ねてみよう。 くっつけてみよう。 ・何をつくろうかな。 人形がいいかな。 電車がいいかな。</p> <p>○ おもちゃをつくってみよう。 おもちゃの本をさがしてこようか。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">本</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">道具・二次的材料</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">材 料</div> </div> <p style="text-align: center;">活動コーナー 子供たちと相談して決める。</p> </div> <p>○ 作ろうとしているおもちゃを友だちに教えよう。</p>	<p>○ 作りたいものがはっきりせずに、表情も不安そうなお子に対しては、これまでの生活経験の中で遊んだ道具やおもちゃを連想できるように言葉かけをする。 ・ふってごらん。音がでるよ。 ・お人形もできるよね。 ・○○ちゃんが夏休みの工作で作ったね。</p> <p>○ 糸・クリップ・マジック・セロテープ・毛糸・針金等(二次的材料)も用意しておく。</p> <p>○ 自分で必要なものを考え、人に伝えたり、探したりする態度を育てたい。</p> <p>○ 教科書や図工の本、工作の本などを見ようとしている子供に対しその思いつきをほめたい。</p> <p>◎評価 材料に対し、積極的にかかわっていかようとする態度を認めたい。</p> <p>評価の観点→求める子供の姿</p> <p>○ こんなものを作ろうとしているということを友だちに伝えることで、また、教師が復唱することで、自分の作ろうとしているものを見通しを立てられるようにしたい。</p> <p>○ 友だちの考えを知り、友だちの良さに気付くようにさせたい。</p>

カ 実際の活動の流れ

	教師の投げ掛け	子供の活動・つぶやき
第1時	<p>○ カップやバックの廃材の山を見せる「この材料を一緒に整理しよう。」</p> 	<p>○ うわあ、いっぱい。車とか作れるよ。</p> <p>※ 子供たちは、お皿はお皿というように仲間分けしながら、かごの入れ物にわけていった。</p> <p>※ 帽子にしてみたり、重ねたりしてみる。</p> <p>○ 変わっているものや珍しいものを入れるところもつくろうよ。</p> <p>※ 教室においてあったおもちゃの本のコーナーに4～6人の子が集まってじっと本を読みだす。</p>

第2時

- 材料となかよしになって作ろう。  
場所の確認・安全の確認

- ここに牛乳パックの箱を置こう。
- みんながよく見えるように並べよう。



おもちゃづくりの例 楽器 メリーゴーランド 武器 シャベルカー ふね 車  
せんすいかん ころがすおもちゃ おうち ひこうき 電車

- \*教師の支援
- 【0児】手にとって見る。牛乳パックを重ねる。箱を重ねる。ペットボトルをつなげる。「武器だ。武器だ。」どんぐりを入れる。「飾ると目もするよ。」同じのを何本も作る。
  - 【S児】「今日ぼくは作るもの決まっている。」本を見せる。本を見ながら作る。「先生切つて。」ダンボールを切ってもらおう。\*自分で切り出す。自分の考えで本と並べて作る。
  - 【I児】パックをずっと探す。丸く切ろうとする。うまく切れない。「先生丸く切つて下さい。」\*輪ゴムと丸い部品でオルゴールのネジを作ろうとするが思うようにできない。時間いっぱい作り続ける。
  - 【O児】箱を何本も集める。ダンボールカッターで、いろいろ切り分け、切り続ける。組み合わせて飛行機を作る。かなりの自作用になる。
  - 【H児】パックを重ねる。パックを丸く切つてタイヤにしようとする。うまくいかない。フィルムケースの蓋はどう？と話しかける。  
\*「これはいいや。」他の子もまねをする。
  - 【T児】デザートのカップを重ねる。いろいろの容器をあわせてどんぐりを入れる。飾ってみる。「目が違うよ。」いろいろ作ってみる。飾りをつける。マラカスのようなものも作る。

- 今、作っているおもちゃをみんなに紹介しよう。  
教えてあげることがあったら話してね。

- パラシュートを作った。おもりをつけるともっとうまく飛ぶよ。(O児)
- 楽器を作った。音が違うよ。
- ころがし迷路を作ったよ。上手。すごい。
- メリーゴーランドを作っている。下を粘土とかで動かないようにしたら。(S児)

第4時

- これからどうしたい？
- ・おもちゃコーナーとか？
- ・武器とかを作った人は？
- じゃみんなでお名前を決めよう

- 自分で遊びたいように遊びたい。
- 置いておいて自由にお友だちのを借りたりして遊びたい。飾って見てもらいたい。
- コーナーとかきめて順番に遊ぶ。
- 電車を作った人は線路やトンネルをつくれればいいおもちゃの広場みたいに。
- 船をつくった人は海をつくれればいいよ。
- 4組もさそおうよ。地図みたいにしてもいいよ。
- 遊ぶコーナーを作る。  
お祭りみたいにした。おもちゃのお祭りにしよう
- おもちゃの公園がいいよ。
- もっとかわいいのがいいよ。

おもちゃのせかい

ひこうじょう・ふねあそび・でんしゃあそび・ゆうえんち・楽器コーナー・武器コーナ

今日は、おもちゃのせかいをやりました。かっこいいコーナーをやってもらいました。みんなおもしろいとおもいました。おもしろいおもちゃを作りました。でんしゃは、あそびたい。かっこいいおもちゃを作りました。おもしろいおもちゃを作りました。おもしろいおもちゃを作りました。

10/6 全 おもちゃのせかい



(4) 授業の分析と考察

ア 子供の願いが生きる活動計画

第1時にいろいろな材料に十分に触れるような時間を設定した。子供たちは材料を仲間分けしたり身に付けてみたりしながら、この材料で何か作りたいという思いを持つことができたようだ。この思いを原動力として、進んでおもちゃの本を調べたり子供同士で情報交換する姿が見られた。子供たちは自分のおもちゃを作りながら、他の子供のおもちゃもよく知っていた。みんなで遊べるように自分たちで「おもちゃのせかい」と名前を付け遊びを考え出した。教師の考えた活動計画を一方的に与えるのではなく、子供自身の課題として子供に返していくことで意欲を盛り上げ、子供自身が活動のめあてをもって活動していくことができた。

イ 支 援

これまでの子供一人一人の制作活動の様子や生活経験をよく調べ、本活動を通して育てていきたいという教師の願いを加味しながら本時における支援案を立てて授業に取り組んだ。

表1 「つくってあそぼう」支援案

児童名	アロフィール	これまでの生活の様子						これまでの生活の様子 (制作活動中心)	本活動を通して育てたい力 伸ばしたい所 (教師の願い)	本時における教師の子育て支援 *特にかかわってほしい児童	本時における 児童の活動
		よく遊ぶおもちゃ	おもちゃの種類	遊びの様子	おもちゃの遊び方	おもちゃの持ち方	おもちゃの修理				
1 A	ぬいぐるみ	風車	○	○	○	○	一人集中して作る	おもちゃの作りかたを調べる		オルゴール	
2 B	輪 フリスビー	貯金箱	○	○	○	○	いろいろ知っている。	友達の良いところを見つかるように	その子なりのおもちゃに対するイメージを大切に、材料に触れる場面を見守ってほしい。	楽器	
3 C	フリスビー	おもちゃの本					調べる	おもちゃの作りかたを調べる		伝説の武器	
4 D	風車	トラック	○	○	○	○	外遊びが好き。	おもちゃの作りかたを調べる	作ろうとしているものを聞いてあげるようにする。	ひこうき	
5 E	ぬいぐるみ	車	○	○	○	○	おもちゃの本を調べる	おもちゃの作りかたを調べる	見え合ったり相談している児童に	車	

本時においては、子供一人一人がおもちゃを作りたいという思いを持っていたので、技能的な面や、部品面でのアドバイスを中心に支援していった。子供同士の情報交換という場の設定によって、友達とのかかわりに興味がなかったS児のよさがみんなの前で認められた。

ウ 具体的な活動に対する評価

単元のねらう活動を具体的な子供の活動の姿で明記(評価の観点)し評価に生かした。本時の活動において、材料を手にとって重ねたりつなげたり、進んで材料とかかわる子、初めての道具を使おうとする子、本を調べる子など、どの子もおもちゃを作りたいという意欲を持って活動していた。教師が本時に求める子供の活動と、実際の子供の活動が一致していた。求める子供の活動は、意欲の喚起をはじめ、求める子供の活動の姿に沿った多くの支援があって成立するものであると考える。

表2 「つくってあそぼう」活動に対する評価一覧表

児童名	準備 活動	関心・意欲										思考・表現					実行力					備考						
		自分なりに作りたいものをも考えたり、作ったりしようとする。										自分なりのおもちゃを作ることができる。					友だちの良いところを見つかる											
つくってあそぼう	工作 作ったこと できたこと できたこと できたこと	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	おもちゃの本を調べる	
1 A	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	おもちゃの本を調べる。
2 B	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	おもちゃの本を調べる。
3 C	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	おもちゃの本を調べる。

(5) 今後の課題

- ア 他教科との関連を図り、子供一人一人に活躍の場を保障する年間の活動計画について研究する。
- イ 子供の良さを引き出せる支援と評価について研究を深める。

## 【授業研究2】 小学校第2学年「作ってあそぼう」

### (1) 授業研究のねらい

本単元は、「自分もおもちゃを作ってみたい。」という子供の思いからスタートし、おもちゃが出来上がると「もっとよく動くようにしたい。」「作ったおもちゃでみんなと遊びたい。」という思いや願いを大切にしていきたい。子供の思いや願いが生かされ、作っては直す活動を繰り返す中で、子供の思考や気づきが深められるとともに、満足感や成就感を味わう豊かな活動が展開されると考える。そのために、一人一人に即した適切な支援の在り方について、授業を通して研究をする。

### (2) 豊かな活動を促すための手だて

#### ア 子供の思いや願いを広げ、深めていく活動計画

- (ア) 子供の願いに基づいて、子供の意識の流れで活動計画を作る。
- (イ) 振り返りの時間を大切にし、子供同士の教え合いや気づきを深めていく。
- (ウ) 生活科と他教科及び領域とを関連づけた活動計画を立てる。

#### イ 子供の生き生きとした主体的な活動を促す支援と評価

- (ア) 子供の願いをしっかりと受け止め、一人一人の子供に即した支援の仕方を明確にする。
- (イ) 普段から子供理解に努め、活動意欲が持続していくような支援をする。
- (ウ) 一人一人の子供を伸ばしていけるように、多様な評価方法で評価をする。

### (3) 授業の実践

#### ア 単元 作ってあそぼう

#### イ 単元について

本単元は、「おもちゃを作って遊びたい。」という子供の思いを生かし、身近な材料で作りたいおもちゃを作る活動が中心となる。子供のおもちゃへの関心は高く、作って遊ぶことが好きなので、どんなものをつくるか、どうやって動かすのか具体的にイメージできれば子供は主体的に活動すると思われる。また、動く仕組みの面白さや不思議さに目を向けられるように、いろいろな動きをする参考作品のおもちゃと出合わせ、動きについての発想が広がるようにしたい。「もっとよく動くようにしたい。」という子供の願いを生かし、何回も作り直すといった活動を通して創意工夫し、よりよいものに作り上げていけるように支援していきたい。

#### ウ 単元の目標

- 〈関心・意欲・態度〉 ○ 身近な材料を使って動くおもちゃを工夫して作り、動かして遊ぶ楽しさを味わおうとする。
- 〈思考・表現〉 ○ 身の回りの材料を使って、よく動くおもちゃを工夫して作ることができる。
- 〈気づき〉 ○ 作ったおもちゃで遊んだり遊びを工夫したりする中で、友達のおもちゃとの違いに気付く。

エ 活動計画 (9時間扱い)

次	子供の活動	教師の支援	評価
1	<p>おもちゃであそぼう(2編) ※1</p> <p>○おもちゃであそぼう ・どうやって動くのかな ・おもちゃを作ってみよう ○おもちゃ作りの計画をたてよう ・材料は何を使おうかな</p>	<p>○ 参考作品のおもちゃを紹介するが簡単に仕組みのわかるものとし、おもちゃ作りへの関心を高める。</p> <p>○ 教師も子供と一緒に遊ぶ中で動く仕組みに気付いていけるようにする。</p> <p>○ 子供が用意した材料の他にも使えそうなものを用意しておくことで、制作意欲や発想の広がりを期待する。</p>	<p>・おもちゃの動く不思議さに関心を持ち自分でも作ってみようという意欲をもととする。(関・意・態)</p> <p>・おもちゃに動く仕組みがあることに気付く。(気付き)</p>
2	<p>おもちゃを作ろう(4編) ※2</p> <p>○集めた材料でおもちゃを作ろう ・ここは☆☆を使おう ・◎◎があるといいな ○動かしてみよう(本時は第3時) ・どうすればいいかな ・もっと速く動かしたい ・ここを直してみよう</p>	<p>○ 教師も子供と一緒に遊ぶ中で動く仕組みに気付いていけるようにする。</p> <p>○ 子供が用意した材料の他にも使えそうなものを用意しておくことで、制作意欲や発想の広がりを期待する。</p> <p>○ 子供のつぶやきを聞きながら子供の発想を生かして工夫できるように言葉かけをする。</p> <p>○ つまずきの見られる子供には適切な援助をする。</p> <p>○ もっとよく動くように考えたり作り直したりする時間を保障する。</p> <p>○ 自由に試し遊びができるような場所を設定する。</p> <p>○ 教え合ったり助け合ったりしている子供を賞賛する。</p>	<p>・よりよいものにしようという意欲をもち、最後まで作ろうとしている。(関・意・態)</p> <p>・身の回りの材料を使って自分なりに工夫したおもちゃを作ることができる。(思・判)</p> <p>・使える材料や道具に気付く(気付き)</p>
3	<p>おもちゃ大会をしよう(3編) ※3</p> <p>○おもちゃ大会の準備をしよう ・何を準備しようか ○おもちゃ大会をしよう ・◎◎さんのはよく動くね ・みんなで楽しく遊べたね</p>	<p>○ 教え合ったり助け合ったりしている子供を賞賛する。</p> <p>○ 完成した子供から競争を始められると思われるので、その場をとらえて大会に誘いかけるようにする。</p> <p>○ それぞれのおもちゃを紹介し合うことで友達のおもちゃのよい点に気付くようにする。</p> <p>○ おもちゃ大会の相談は学級活動の時間に話し合うようにする</p>	<p>・友達と協力して楽しいおもちゃ大会を開こうとしている。(関・意・態)</p> <p>・おもちゃ大会での遊び方を工夫できる。(思・判)</p> <p>・友達のおもちゃのよいところや遊び方の工夫について気付く。(気付き)</p>

※他教科との関連

※1 夏休みの作品展(行事)

※2 びんのかそう大会(園工)

※3 おもちゃ大会の相談をしよう(学級活動)

オ 本時の活動

- (ア) 目標 自分の願いをもっておもちゃを工夫して作ったり、改良したりすることができる。
- (イ) 支援 自分で作りたいおもちゃのイメージをしっかりとち、自ら材料を集めおもちゃ作りに取り組んできた。イメージされたおもちゃの形が大体できると、それぞれに動かしてみれば、その動き具合を試すであろう。中には同じ種類のおもちゃを作った友達と競争を始める子供もいるであろう。子供は「もっとよく動くようにしたい。」という新たな願いをもつであろう。どうしたらもっとよく動くか、うまく動かないのはなぜなのかなど自分で試しに動かしてみよう。友達の友達のおもちゃと比べてみて考えたりする過程を大切に十分時間を取りたいと考える。また、思うように動かない子供に対しては一緒に作り直したり友達の意見を聞いたりしてどこを改良したらよいか気付くように支援していきたい。

(ウ) 評 価

場 面	評価の観点	求 め る 子 供 の 姿
活動中	関心・意欲・態度	・熱中して作っている。 ・友達と教え合ったり、助け合ったりしている。
	思考・表現	・よく動くように作り直している。

(エ) 展 開

子供の活動	教師の支援
<p>○ 動くおもちゃを工夫して作ろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・もっとスピードがでる車にしたい</li> <li>・どうすればうまく動くかな。</li> <li>・もう一回作りかえてみようかな。</li> <li>・☆☆を直せばよく動くかな。</li> <li>・ゴムを取り替えてみようかな。</li> <li>・◎◎さん、こうやるといいよ。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>○ 工夫したところやがんばったところを発表しよう。</p> <p>○ 後片付けをしよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の活動と終了時刻の確認をして、すぐ活動に入るようにする。</li> <li>・よりよいものに工夫している子供の活動を認め、広めるようにする。</li> <li>・思うように動かないで悩んでいる子供には、一緒に動かしてみたり改良点について相談にのったりして意欲がもてるようにする。</li> <li>・A児については、工夫している点をほめ、根気よく作るようにともに活動して励ます。</li> <li>・きりやベンチなどの用具の正しい使い方を教える。</li> <li>・自分の考えで作業できるM児には、どのように工夫するのか見守る。</li> <li>・改良した子供から競争を始めたり、試しに動かしたりすると思うので、自由に活動できるような場を設定しておく。</li> </ul> <p>評 よく動くように工夫している姿を認めたい。 (→評価の観点)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・工夫したところやがんばったところを認め合ったり改良点を教え合ったりしてこれからの活動意欲や自信につなげる。</li> <li>・みんなで協力して片付けができるようにする。</li> </ul>

カ 本時のまとめ

ほとんどの子供が作りながら、試しに動かして動き具合を見ていたので、うまく動いた子供にはさらなる工夫が生まれるように言葉かけをした。もっとよく動くようにしたい子供や思うように動かないおもちゃに対しては、一緒に動かしたり作ったりしながらどこを直したらよいのか相談にのるような支援をした。また、一時間の終わりに振り返りの時間を設け、子供同士の認め合いや教え合いの場とした。ここで、4名の子供の活動の様子と教師の支援について述べる。

抽出児 作品 活動の流れ	T 男	S 子	J 男	O 男
	らっかさんとばし	ころころ船	ゴムの力で動く船	くるま
前時までの活動の様子	初めに書いた設計図では、失敗する。らっかさんを飛ばす台に作りかえている。	プールを持ってきて浮かべたいと張り切っていた。早くやりたい様子	船のイメージがすぐ湧き、自分の力でぐいぐいと作ってきた。	作りたいイメージがなかなか浮かばなかったので、一緒に活動した。

<p>◎ 子供の活動</p> <p>■ 教師の支援</p> <p>活動中</p>	<p>◎ 角材のぐらつきを気にしながらダンボールを切る。</p> <p>■ 動いちゃうよ。だいじょうぶ?</p> <p>◎ 「まっすぐ立てた方がいいかな。」</p> <p>◎ 設計図に戻って考えている。</p> <p>◎ 角材の足元を切りこみを入れたガムテープでとめる工夫をする。成功する。</p> <p>■ 「すごいいいねえ」</p> <p>◎ にっこりする。</p>	<p>◎ ストローを何回も回して水に浮かべた。動かない。</p> <p>M子「ストローを替えてみたら。」</p> <p>◎ ストローを割り箸に変える。動かない。</p> <p>■ どう? どうして動かないのかな?</p> <p>◎ 何回も割り箸を回して試してみる</p> <p>◎ カンと割り箸をつないでいるゴムを太いゴムに取り替える。動かない</p> <p>◎ しばらく考える。</p> <p>◎ カンについているガムテープの水かきの数を多くする。動かない。</p> <p>3回の改良にもかかわらず、次時に教師の支援が必要であった。</p>	<p>◎ プールに浮かべてみる。たおれてしまう。</p> <p>■ どうしようか。</p> <p>M子「上が重いんじゃない。」</p> <p>■ よいアイデアをもらったね。</p> <p>◎ 上の物をとる。「ここから水が入るんだな。」</p> <p>◎ ガムテープで箱のすきまをとめる</p> <p>◎ 浮かべるがまたたおれる。</p> <p>◎ 発泡スチロールを浮かべ考える。</p> <p>◎ 両側に発泡スチロールをとりつける。浮かべてみる。(たおれないがよく進まない)</p>	<p>◎ できた車を動かしてみる。うどんカップの中の人形がはずれる。</p> <p>◎ ガムテープで人形を付け直す。</p> <p>■ 今日は何をするの?</p> <p>◎ 「ハンドル作り」</p> <p>◎ 人形の腕に針金のハンドルをもたせようといろいろ試す。ガムテープではり成功。喜ぶ</p> <p>◎ 車を走らせに行く。友達と競争。「よっしゃ。ほくの方が速いぞ」</p> <p>■ すごい! よく走るようになったねよかったね。</p> <p>◎ 風受けのカップが弱かったのでガムテープをはり補強する。</p> <p>◎ 車を裏返し竹ひごを通してあるストローをテープでしっかりとめる。</p> <p>◎ また友達と走らせてみる。前よりも速くまで走るようになる。</p>
 <p>うまく立たせるため割り箸2本で支えとする工夫をする。</p>		<p>「あと2つまわるやつ(プロペラ)を作ってみよう。」</p>		
<p>振り返る</p>	<p>T男のおもちゃへ</p> <p>◎ おもりを真ん中につけるといいよ。</p> <p>◎ 3本のひもの長さを同じ長さにした方がいいよ。</p>	<p>自分のおもちゃがうまく動かなかったためか、友達の発表をだまって聞いていた。</p>	<p>◎ 友達の発表をじっと聞いていた。「ここここに回して動くやつをつければいい。」とつぶやく。</p>	<p>S子のおもちゃへ</p> <p>◎ タイヤを直すと思曲がらないで走ると思う。</p>



#### (4) 授業の分析と考察

ア 子供の願いに基づく活動を展開することで生き生きとした活動になった。

第1次「おもちゃであそぼう」の活動は、教師自作のおもちゃや夏休みの子供の作品などで遊ぶ計画であったが、教室にあるおもちゃ作りの本を見た子供が進んでおもちゃを作ってきた。その影響を受け別の種類のおもちゃを作ってくる子供が数名いた。そのことがきっかけとなっておもちゃ作りの活動が生まれた。このことが子供に活動の見通しと意欲をもたせることになった。第3次「おもちゃ大会をしよう」の活動も、おもちゃの紹介をしたい、おもちゃで遊びたいという子供の願いから「おもちゃのせかい」が開かれることになった。子供の思いや願いで活動が展開されたことで、自分たちで計画するなど主体的な取り組みが見られた。

イ 作り直す活動や友達同士の教え合いなどが、新たな工夫や気づきを生み出した。

作ったおもちゃを試して動かしてみ、改良する、作り直すといった活動の場や時間を保障していくことにより、活動が生き生きしていった。「ここはどうしたらよいだらう。」「もっと速く動かすにはどうしたらよいか。」など考えたり、友達同士で教え合ったりすることで新しい発想を生み出したり、工夫をしていくことができた。

ウ 他教科及び領域との関連を図った活動が本単元に生かされた。

図工科「びんのかそう大会」の学習で設計図をかく・創意工夫する・自分なりの発想を生かすなどといった力が本単元にも生かされた。「おもちゃのせかいをひらこう」の相談を学級活動の時間に行うなど、他教科・領域との関連を図った活動を取り入れたことで、子供の発想が豊かになり、自信をもって取り組む姿がみられた。

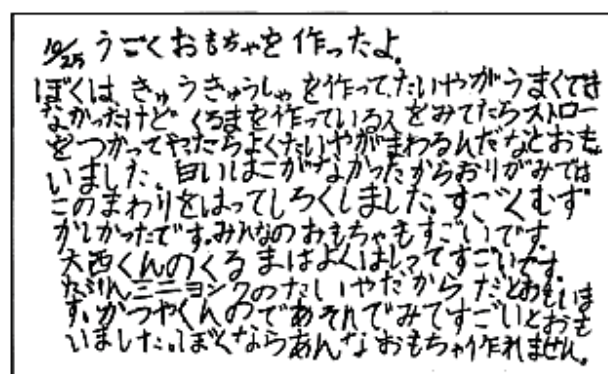
エ 子供の理解に基づいた支援をすることが児童一人一人の活動意欲を持続させた。

子供の思いや願いに基づいた主体的な活動を尊重し、「見守る」支援に努めた。また、子供とともに活動して、積極的に子供のよさの発見をするとともに、ほめて励ます支援をし自信をもたせるようにした。そのため活動意欲の高まりやもっと工夫してみようという態度が見られた。一人一人の子供に対する支援については、生活科の時間だけでなく休み時間や給食の時間にもおもちゃ作りについての話をして子供の考えを聞いたり相談にのったりした。それによって次の時間、どの子に、どんな支援をしたらよいかを把握することができた。

オ 多様な評価方法による評価をすることで子供の理解ができた。

評価規準表による評価、自己評価、座席表への記入、子供が書いた文、活動中のつぶやきなどさまざまな面からの評価に心がけた。特に、単元が終わって書いた子供の文からは、今までの活動を振り返っての感想が書かれており、子供の気づきや思考の変化などが読み取れ、子供の内面的な評価、子供理解につながった。

#### 資料 子供の感想文



うごくおもちゃを作ったよ。  
ぼくは、きゅうきゅうを作った。いやかうまくて  
なかつたけど、くまを作っている人を見て、ろストロー  
をつかってやたらよくたけやがまわるんだとおも  
いました。白いはこがなかつたからおりがみで  
このまわりをはってしちくしました。すてくむず  
かしかつたです。みんなのおもちゃもすてくむず  
大西くんのくるまはよくはいてすてくむず  
なぶんニニヨクのだし、いやだから、たてあしほ  
つかつやくんのであそんでみです。すてくむずとおも  
いました。はまぐなうあんのおもちゃ作れせん。

#### (5) 今後の課題

ア 子供の主体的な活動を促し広がりや深まりのある年間及び単元の活動計画について研究する。

イ 子供一人一人に適した支援の在り方と支援に生きる評価について研究を深める。

ウ ティームティーチングを取り入れた望ましい授業の在り方について研究する。

## おわりに

本研究は、平成6年度から平成7年度の2年間にわたり、公立小学校の生活科担当教員2名に研究協力員を委嘱し、研究協議会を開催して生活科に関する理論研究及び学習指導に関する調査研究を行った。また、調査研究の結果に基づき研究協力員の所属学校で授業研究を行った。その結果、小学校の生活科主任を対象とした意識・実態調査及び授業研究から、次のことが明らかになった。

### (1) 意識・実態調査結果にみられた教師の意識

- ア 子供が主体的に活動するためには、教材の開発及び思いや願いがもてるような活動計画が大切であると考えていること。
- イ 子供の思いや願いは、会話やつぶやき、活動の様子などからとらえられるが、時間的なゆとり、地域や学校での安全や環境面に課題があり、活動に生かせないことがあると考えていること。
- ウ 教師の支援としては、子供を温かく見守り、励ましの言葉をかけたり、環境の構成をしたり、活動の中で子供の気付きを全体に広げたりすることが効果的であると考えていること。
- エ 子供が主体的に活動するためには、子供一人一人の思いや願いを教師が的確にとらえ、臨機応変に対応していく柔軟性が求められると考えていること。

### (2) 授業研究の成果

- ア 子供の思いや願いへの柔軟な対応を心がけ、子供の発見した問題を活動計画に反映させたことや支援案を立て授業に取り組んだことで、問題解決のために没頭している子供や自分で考えたことを豊かに表現している子供など生き生きと活動している子供の姿が見られた。
- イ 単元で求める子供の姿を具体的な活動の姿としてとらえておいたことは、小学校1年生と2年生、それぞれの学年に応じた主体的な活動を促す支援と評価を行うために有効であった。
- ウ 情報交換の場を設定したことは、子供の中から新たな工夫や気付きが生み出されたり、子供同士でお互いのよさを認め合ったり、教師が子供の新たなよさを発見することに繋がった。
- エ 他教科や領域との関連を図ったことは、活動の場の広がりや技能の向上など子供の意欲の高まりや表現力の向上に繋がった。

### (3) 今後の課題

- ア 子供の活動に広まりと深まりが保障できる年間の活動計画について研究をする。
- イ 子供のよさを引き出し、伸ばせる支援と評価について研究を深める。
- ウ ティームティーチングを取り入れた授業の在り方について研究をする。

生活科の目指す具体的な学力として、「身近な環境や自分自身に関心をもち、進んでそれらとかわかり、楽しく学習や生活をしようとする力」、「具体的な活動や体験について、自分なりに考えたり、工夫したりして、それをすなおに表現する力」、「具体的な活動や体験をしながら、自分と身近な社会や自然とかわかり及び自分自身のよさなどに気付く力」が示されている。本研究では、これらの学力の育成を目指して研究をしてきた。残された課題は多いが、各学校での学習指導の改善・充実に役立てば幸いである。

### 《主な参考文献》

小学校教育課程一般指導資料「新しい学力観に立つ教育課程の創造と展開」、平成5年9月、文部省  
小学校生活科指導資料「新しい学力観に立つ生活科の学習指導の創造」、平成5年9月、文部省  
小学校生活科指導資料「新しい学力観に立つ生活科の授業の工夫」、平成7年10月、文部省